

令和6年度 第3回さぬき市地域未来づくり会議 会議要旨

開催日時	令和6年7月23日（火）午後7時～午後8時30分
場 所	さぬき市役所附属棟 多目的室
出席者	[委員・コーディネーター] 計5名 折原委員、砂川委員（WEB）、長町委員、池田委員、黒川コーディネーター
	[事務局] 計4名 向井審議監 プロジェクト推進室：大山室長、原田室長補佐、谷本主査
欠席者	なし
傍聴者	なし
次第	1 開会 2 官民連携サイト開設に係る情報発信等について 3 その他 4 閉会
配布資料	次第
発言者	意見概要
座長	前回で官民連携の専用サイトを仮作成するところまでできたので、今回は事務局で修正した箇所の報告を受け、その後はサイトをどうやって認知してもらうのかということや、今後の議論の種をどうするのかといったことを話していきたいと思う。まずはサイトの修正点について説明いただきたい。
事務局	（サイトの修正箇所を説明）
座長	ネーミングライツと提案とが選択できれば良いと思う。
事務局	ネーミングライツは、フォームからではなく専用シートをメールで提出させることを考えている。
委員	このサイトはどう検索すれば見つかるのか。
座長	それを今回議論していきたいと思っている。中間発表の時にメディアの方が公開する際は取材させてほしいという話があったので、その際は記事として取り上げてくれると思う。サイトに関しては修正していただき、次回確認することとしたい。ここからは広報の部分の議論ができていなかったと思うのでそれを議論したい。
委員	今回作成したサイトで官民連携をアシストしていくこととなると思うが、ではこのサイトをどうすれば使われるのかということを議論しておくことは良いと思う。

座長	一旦広報のことを議論して、時間があればそれ以外で官民連携をするにあたり気づいたこと等を話ができれば良いと思う。それでは早速広報の話に議論を移したい。一つはさぬき市ができる広報手段を挙げていただくことと、それ以外の部分を考えていきたい。
事務局	現状では、まず、市のホームページや広報紙がある。その他には市の公式ラインやプレスリリース、ケーブルテレビがある。
座長	一時的に知ってもらうことと常設で目にするものの2つが大事だと思っている。以前この話が出た時にはバナーをホームページのどこかに掲載できないかという話があった。
事務局	提案があるのは企業からが多いと思うので、例えば香川経済レポート社等に働きかけることもできると思う。
座長	さぬき市からの広報以外の方法で何かできることはないか。
委員	チラシはどうか。
事務局	チラシであれば、例えば商工会が2ヶ月に1回会員に送っている資料と一緒に入れてもらうことは考えられる。ただ市内企業だけでなく幅広くした方が可能性は高くなると思う。
座長	確かに視察に行ったところでは市外の企業が多かった。
事務局	あと銀行にお願いして広報することもできると思う。
座長	地域内向けの広報は意外と充実している感じがする。企業誘致のパンフレットはどこに配布しているのか。
事務局	県の東京事務所や大阪事務所にも配布していると思う。
委員	それはどういうところなのか。
事務局	国の省庁との連絡調整や企業誘致のほか観光物産PR等を行っている。
座長	ふるさと納税の返礼品を送るときにチラシを入れることはできないか。ただうまく企業の担当の方に届くかどうかは分からない。チラシでなくてもメールでやり取りをするという工程があるのであれば、そこにお知らせのメールを送ることもできる

	と思う。
委員	インスタグラムやユーチューブ等でPRすることはできるが、ただ投稿しただけだとあまり効果はなく、一方で予算をかけて広報をするととなると本末転倒になってしまう。
座長	国のマッチング制度の話で以前聞いたので調べてみる価値はあると思う。
事務局	使っていない施設の活用といった具体的なプロジェクトであれば利用できると思うが、サイトを作成したというだけでは難しいと思う。
座長	県外の事業者がよく使う施設にQRコードを置くだけでも効果はあると思う。
事務局	先進的な自治体がフリーの提案をどうやって集めるのかを調べてみる価値はあると思う。恐らく、サイトを開設して実際の応募があるとニュースで取り上げられると思われる。
座長	広く認知されるということと、いかに事例を一つでも二つでも生むのかという2つのことが問題としてあるのではないかと思う。
委員	どうしても事例を作りたいのであれば10社ぐらいのリストを作りピンポイントで営業を行うことも考えられる。都内であればタクシーを広報媒体として使うことはある。
座長	高松市でもコワーキングスペースやレンタルオフィスとかが最近できているが、そういったところと連携することも可能性としてはあると思う。また、行政が運営しているものもあると思うので、そういうところであればチラシくらいは置いてもらえる気がする。今さぬき市の地域おこし協力隊が関係人口のチラシを作って東京にもいくつかの場所に置いてもらっているところがあると聞いているので、そこは相性が良いかもしれない。
事務局	サイトを作成した時に新たな財政負担を生じさせないことと単なる営業はお断りするということであったと思うが、相手が民間企業であれば自らのノウハウで市の課題を解決するということになった時に新たな財政負担を生じさせないこととなると市の支出が絡むものは一切ダメと言うことになる。そうすると民間企業から提案を引き出すということはなかなか難しいと思う。例えば市の財政負担を軽減させてくれるという提案も中にはあると思うので、このサイトが企業にとってうまみがあることが一つポイントだと思う。

座長	それであれば埼玉県横瀬町の「よこらぼ」では、まずは一つ事例を作ることが民間企業側にとっても重要だと言うことを聞いた。
事務局	実証や県内で初めて取り組むところには無償で行う提案もこれまで市に話があったこともある。
座長	そういうことも事例に組み込むことはできるのかもしれないし、そういった提案があったときにサイトを經由するということでメディアに取り上げていただくことも大事かもしれない。今までであれば県内発でこういう取組をやりますと言っていたものが、ワンストップ窓口を通じてとなると取材もされやすくなると思う。財政負担に関しては、例えば香川県が津田の松原の松葉の焼却コストが年間800万円程度かかっているものを燃料に変えることで400万円程度にまで抑えてくれる民間事業者を探しているそうで、このケースだと民間企業もうまみを感じるのではないかと思う。事例数を作ることで一番良いのは、新聞やテレビの方にも来ていただいてY o u t u b eにアップしたものをサイトにリンクを貼っておくこともできると思う。ゼロからの提案というものと財政負担を軽減できるという提案をサイトの中に事例を入れることは良いと思う。
委員	事例を生み出すために市が抱える悩みの一つをホームページに提示しておくということはどうか。
座長	ネーミングライツがそれにあたると思う。対象とする施設はどこか。
事務局	10施設程度のほかその他の施設でも希望があれば相談に乗ると言う形を想定している。
委員	まずはネーミングライツの成功事例を作って広げていくということか。
座長	それは一つあると思う。視察で伺った自治体も最初はネーミングライツから始めたと言われていた。まず、やってみて反応を見ることが大事だと思う。あと一定の民間企業に委員のメンバーが直接声掛けをするということではできると思う。
委員	フェーズを分けて考えた方が良いと思っていて、民間企業としても提案する際にある程度のコストはかかるので、その分のリターンがありそうだと思うれば提案してくると思うが、今の状態だとイメージが沸き切らない企業が多いと思う。それまではネーミングライツのようにこちら側から課題を提示して事例を集めることが必要だと思う。
委員	ネーミングライツに手を挙げてくれそうな企業が居そうな場所とかにポイントを

	絞り広報することは大事だと思う。
座長	銀行は取引先も多いと思うので良いと思う。あとメディアは結構大事な気がする。理想は県外の企業だが、県内の企業に対してメディア露出することも重要だ。実際さぬき市の取組はメディアに取り上げられやすいのか。
事務局	内容にもよるが、四国新聞とケーブルテレビは基本的に取り上げてくれそうだが、テレビや全国紙はハードルが高い。
座長	やれることは全部やるのが大事だと思うし、プレスリリースの書き方も大事だと思う。公開時期はいつになるのか。
事務局	修正したものを了解いただけたら9月から公開になると思う。あと新聞に掲載してもらえば、全国や県内で初めてといったように独自性というものが必要だと思う。この場合の独自性と言うものはワンストップで民間からの提案を受け付けるということなので、特徴がある部分をアピールすれば取り上げてくれる可能性もあると思う。
座長	ワンストップ窓口が県内初かどうか次回までに確認して欲しい。
事務局	了解した。
座長	ワンストップ窓口の開設と合わせて市内の公共施設のネーミングライツも第1弾として開始したという形が良いと思う。
委員	プレスリリースの内容は会議内で話し合うのか。
事務局	市がワンストップ窓口を設置するので、プレスリリースも市が行うこととなる。あと地域未来づくり会議が発案した提案制度という話であれば独自性があるのではないか。
座長	あと取材される場合は絵があった方が良いと思うので、サイトの開設式みたいなことをすることも一つ考えられると思う。次回にどうするかを話し合いたいと思う。それ以外で広報のところで何か意見はあるか。
委員	実際にこのサイトに入ってきた時に疑問点や提案する前に色々聞きたい場合はどういうフローになるのか。
座長	問い合わせフォームから問い合わせさせていただくことになると思う。あとは事務局で

	あるプロジェクト推進室に連絡していただくようになると思う。
委員	人が何かを信頼する感情ってすごく面白くて、例えば市長の挨拶をサイトに差し込んでいただけでもちゃんとしてそうだなと思ってもらえて、重い腰を上げてもらえることにも繋がると思う。あと、個人的な感覚だが、問い合わせフォームだとちょっと重いイメージがあって専用の公式ラインとかで気軽に質問とかができればすごく楽だと思う。
座長	まずは、サイトをオープンできる状態にするというのが一つとプレスリリースを次回話し合いができると思う。
事務局	市が作ったプレスリリースを皆さんに修正していただくことが良いと思う。
座長	では、次回はサイトの修正箇所のチェックとプレスリリースの作成、それからメディア向けのイベントをするかどうかを決めたい。それ以外で何か共有したいことがあれば話し合いたいが、なければ前回、官民連携の事例になるのではないかと言うことで少し話をしたワーケーションのことを共有させていただきたい。鎌倉ワーケーションウィークというものがあり、都市部の企業を地域に招いて、日中は働き、夜とか昼ご飯のタイミングで、ここに行けば市の方がいて、ここに行けば民間の方がいて交流でき、夜の懇親会の時に地域の課題についてアイデアを出し合うといったものだ。これをさぬき市でもできないかと考えている。なぜこの会議でこの話をしているのかと言うと、このイベントに県外の企業を呼ぼうと思っていて実際に都市部の企業の声聞けるチャンスだと思っていて、官民連携に繋がる話だと思うからだ。
事務局	企業の方が集団で来るのか。
座長	企業の社長や企画系の方でリモートワークが可能な方を中心に考えている。
委員	県外の人をどう引っ張ってくるか。
座長	さぬき市が瀬戸芸に新たに参入されるということをフックとして集めたいと思っている。瀬戸芸関連の話題に対して10分間のブレインストーミングによるアイデア出しを3回するイメージだ。
事務局	本会議の他のメンバーの方はどういう立ち位置での参加となるのか。フィールドワークに参加してもらう形か。
座長	その形でお願いしたい。参加される方の中には県内の方でさぬき市のことは知って

	<p>いるけど行ったことがないという方もいる。県外から来られる方は恐らく10人から15人くらいだと思っていて初回でそれだけ来たら大成功だと思う。しかも皆さん自費で来られて何か補助をするということもないので、財政負担がなくてできるということで、官民連携の取組にも繋がっているのではないかなと思う。</p>
委員	<p>実現可能性とかを完全に無視して聞き流していただいて構わないが、企業家が自らの持ち出しで経費を出す目的は、経費精算できるかどうかにある。それを軸で考えた時に、例えば企業家が集まる新しいビジネスチャンスの場というだけの論点であれば都内の交流会に行けば良いという話になる。香川県までわざわざ足を運ぶとなった時に、利益の再投資として地方のものを使って新しいブランドを作りたいと言った風に思う人が多いと感じている。なので、一つの見せ方としては地元の農業者とか一次産業をやられている方とのコネクションができる場となると香川県まで足を運ぶ一つの理由になるし、そういった人は一定数いると確信できるのでそういう打ち出し方も面白いかもしれない。</p>
座長	<p>それであれば行政の方も含めて地元から参加する方のリストがあると良いと思う。</p>
委員	<p>香川県や瀬戸内だから手に入るコネクションという見え方が少しでもできるとプラスに働きそうだと思う。</p>
座長	<p>第1回でそこまでできないかもしれないが、第2回、第3回とやるとなった時にできれば良いと思う。先進的に取り組んでいるところも重視していることは来た後に地元の企業との協業が生まれるかどうかとかを指標にされているらしく、そういった意味では、このワーケーションから実績ができれば良いと思う。</p>
委員	<p>次回はサイトの修正箇所のチェックとプレスリリースの確認、リリースに際してイベントをするかどうかを確認することで良いか。</p>
座長	<p>そうだ。イベントはやる方向で考えてみても良いと思う。</p>
事務局	<p>どういう風なイベントか思いつかない。</p>
座長	<p>例えば未来づくり会議からアイデアをもらいサイトを設置することとなったことを市から説明していただいて、サイト内容はメンバー側が発表することもできると思う。あとネーミングライツでは今回募集する施設を紹介する時間があっても良いのではないかな。 以上で、本日の会議は終わりたいと思う。</p>
	<p>～閉会～</p>